

平成27年度第5回 障がい当事者支援プロジェクト 会議録

日時：平成27年8月27日（木）13：30～16：00

場所：三重県身体障害者総合福祉センター大研修室

参加者：プロジェクトメンバー8名、見学1名、事務局3名

1. 前回（7月）話し合ったこと

・事務局の担当者から、前回の内容が説明されました。

・前回は、「障がいのあるなしに関係なくお互いのことを理解する」ことを

目的に、自分とは違う障がいのある人のことについて話し合いました。

・来年から始まる障害者差別解消法のことについて勉強しました。

2. 今回の内容

・今回は、メンバーの中から、雨松智恵子さんが自己紹介をしました（雨松

さんからお名前を記録に残すことを了解いただきましたので、そのまま記録

に出しています）。

・前回から続けて障害者差別解消法について勉強しました。

雨松さんの自己紹介

<生まれてから今までのこと>

わたくし こうべ にらんせい ふたご いもうと う ま れ ま し た 2 か げ つ そうざん
・ 私 は、神戸で二卵性の双子の妹として生まれました。2か月の早産で
した。

4 さい と き のうせい しんだん
・ 4歳の時に脳性まひと診断されました。

しょうがっこう とくべつしえんがっきゅう ざいせき
・ 小学校から特別支援学級に在籍することになりました。

ち さいころ あるける せいこつじん はりちりょう かよったり
・ 小さい頃は、なんとか歩けるようにと整骨院や鍼治療に通ったり、リハビ
リのための入院を繰り返していました。

こうべ しえいだんち 3かい くらして まわり ひと ささえられて
・ 神戸では市営団地の3階に暮らしていましたが、周りの人に支えられて
あたりまえ せいかつ おくって
当たり前前の生活を送っていました。

8 さい みえけん し ひっこす てんこうさき
・ 8歳のころに三重県のA市に引っ越すことになりましたが、転校先がなか
なか みつかりません ちち あね たよっててんきよ わたしたちかぞく
なに見つかりませんでした。父の姉を頼って転居したものの、私たち家族に
とっては土地勘がなく、とても孤独でした。

しょうがっこう がっきゅう はなし うけて じたく
・ ある小学校に「なかよし学級」ができるという話を受けて、ようやく自宅
から おうふく2じかん つうがく まわり
から往復2時間かけて通学することになりました。しかし、周りの人からは
「なぜ車いすなの？」という白い眼で見られていました。それに対して、障
が いしゃ たちば なに いえ ない
がい者の立場からは何も言えないことがつらかったです。

4ねんせい と き いえ ちかがっこう てんこう しゅうい
・ 4年生の時、家から近い学校に転校することになりましたが、周囲から、
いじめにあいました。トイレをがまんするようにいわれたり、「自分でできる
ようになりなさい」「…しないと社会で生きていけないよ」と何事も自分す

るようにいわれました。

・母が私のことを介助することを前提とした学校生活でした。母の言葉が

学校に誤解されることも多く、自分たちが想っていることが相手に正しく

理解してもらえませんでした。

・私の姉もトイレをがまんし続けた結果、失敗してしまったことがありま

した。その時「(雨松さんは悪くないよ)」と言ってくれた友だちがいました。

・中学校は、B市の特別支援学校の中等部に在籍しましたが、同じような

生活でした。

・私は、はやく大人になって、自分のことを自分で決められるようになり

たいと思っていました。

・18歳で就職することになり、周りの人からは「(福祉の)作業所に

行きなさい」と勧められましたが、私は音楽関係の仕事をしたと思っていました。

・結局、18歳から21歳まで、在宅でできるパソコン事務の仕事に就きました。

・今は、体力的な問題で仕事を辞め、福祉サービス事業所に通所しています。

<今の生活で困っていること>

・今困っていることは、私の意思を尊重してくれる人が親以外にいないこ

とです。周りの人は、姉と同じことを私にも勧めてきます。「私」がした

・(他メンバー) 私^{わたし}もまわりの人^{ひと}の顔^{かお}色^{いろ}をうかがってしまうことがあります。や

はり、精神^{せいしん}的^{てき}なサポ^さー^とをしてくれる人^{ひと}をみつけることが大切^{たいせつ}だと思^{おも}います。

ホ^ほー^むヘル^へパー^{ぱー}は仕事^{しごと}なので、関^かわ^わって^てくれ^れない^{ない}こと^{こと}もあ^ある^るので、何^{なん}でも

い^いえ^える^る友^{とも}達^{だち}をみ^みつ^つけ^ける^ること^{こと}が^{ひつ}要^{よう}です。

・(他メンバー) 学^{がく}生^{せい}時^じ代^{だい}にいや^{いや}だ^だつ^つた^たこ^こと^とを^をも^もう^う少^すこ^こし^しお^おし^しえ^えて^てく^くだ^ださ^さい。

→(雨松^{あめまつ}さん) 私^{わたし}が^ができ^きない^{ない}こ^こと^とを^を、でき^きる^るよ^よう^うに^になり^りな^なさ^さい^い、と^とい^いわ^われる^る

こ^こと^とが^が嫌^{いや}で^でし^した^た。学^{がく}生^{せい}時^じ代^{だい}に人^{ひと}の顔^{かお}色^{いろ}を^をう^うか^かが^がう^う癖^{くせ}が^がつ^つい^いて^てし^しま^まい^いま^まし^した^た。

ま^まわ^わり^りに^には^は私^{わたし}の^のこ^こと^とを^をわ^わか^かつ^つて^てく^くれ^れる^る大^おと^とな^なが^がい^いま^ませ^せん^んで^でし^した^た。

・(他メンバー) 転^{てん}校^{こう}す^する^ると^とき^きに^に、行^ぎょう^{せい}の^の人^{ひと}は^は手^てづ^づだ^だつ^つて^てく^くれ^れま^まし^した^たか^か。

→(雨松^{あめまつ}さん) 義^ぎ務^む教^{きょう}育^{いく}の^の間^{あいだ}は^は、ど^どこ^こか^か通^{つう}学^{がく}でき^きる^ると^ところ^{ころ}を^を探^{さが}さ^さな^なけ^けれ^れば^ばい

け^けま^ませ^せん^んが^が、私^{わたし}が^が通^かえ^える^ると^ところ^{ころ}が^が校^{こう}区^く内^{ない}に^にあ^あり^りま^ませ^せん^んで^でし^した^た。私^{わたし}は^は、は^はつ

き^きり^り覚^{おぼ}え^{えて}て^てい^いま^ませ^せん^んが^が、親^{おや}が^がと^とも^も苦^くろ^ろう^うし^して^てい^いま^まし^した^た。

→(県^{けん}担^{たん}当^{とう}者^{しゃ}) 20²⁰年^{ねん}以^い上^{じょう}前^{まえ}の^のこ^こと^とな^なので^で、今^{いま}と^とは^はず^ずい^いぶ^ぶん^ん事^じじ^{じょう}う^うが^が違^{ちが}う^うと

お^{おも}い^いま^ます^すが^が、こ^これ^れか^から^らは^は学^が校^{こう}側^{がわ}が^が支^しえ^{えん}ん^んでき^きる^る環^{かん}き^{きょう}ょう^{ょう}を^を整^とと^{との}え^える^るひ^ひつ^つよう^{よう}が^があ^あり^りま^ます^す。

・(他メンバー) ま^まわ^わり^りの^のど^どん^んな^な人^{ひと}に^に雨^{あめ}松^{まつ}さん^{さん}の^の意^いし^しを^を尊^{そん}ち^{ちょう}う^うし^して^てほ^ほしい^いと

お^{おも}い^いま^ます^すか^か。

→(雨松^{あめまつ}さん) 私^{わたし}は^は、ホ^ほー^むヘル^へパー^{ぱー}に^には^は自^じぶ^ぶん^んの^の気^きも^もち^ちを^を淡^{たん}たん^{たん}い^いう^うこ^こと^とが^が

でき^きま^ます^す。で^でも^も、相^{そう}だ^{だん}い^{いん}ん^んか^から^らは^はま^まず^ず先^さき^{きに}て^てい^いあ^あん^んさ^され^れて^てし^しま^まい^いま^ます^す。そ^そう^うす^すと^と、

じぶん きもち いけん いえなく
自分の気持ちや意見を言えなくなってしまうことがあります。

・(他メンバー) わたし ふだん せいかつ なか ごきんじょ ひと なにげない
私は、普段の生活の中でご近所の人たちと何気ないやりとりを
することができていますが、そんな^{かかわり}関わりを^{たいせつ}大切にしていきたいと思いま
した。

・(他メンバー) いま せいかつ まんぞく
今の生活には満足していますか。

→(雨松さん) あめまつ おや わらって いま わたし しあわせ いま
親が笑ってくれていることが今の私にとっては幸せです。今

は^{じぶん}自分の^{ペース}ペースで^{せいかつ}生活できています。^{わたし}私が^{しんらい}信頼している^{ほうもん}訪問

^りリハビリテーション^{じぎょう}事業の^{りがくりょうほうし}理学療法士の方と^{かた}相談しながら、^{しょうらい}将来の

^{ひとりくらし}一人暮らしに向けた^{むけたけいかく}計画を^{かんがえて}考えています。^{かこ}過去に^{めんえききのう}免疫機能の^{ていか}低下により^{たいりよく}体力

^{おとろえ}が衰え、^{りしよく}離職してしまった^{けいけん}経験があるので、^{けいけん}そういった経験を^{こんご}ふまえて今後の

ことを^{はんだん}判断しようと思っ^{おもって}ています。

・(他メンバー) わたし ははおや ふたりくらし あめまつ おなじ ふあん かかえて
私も母親との2人暮らしで、雨松さんと同じような不安を抱えて

います。^{じぶん}自分も^{いま}今の^{あめまつ}雨松さんと^{おなじとし}同じ年のころに、^{おや}親が^{たおれたとき}倒れた時に^{そなえて}備えて、

^{そうだんいん}相談員に^{じぶん}自分の^{つたえて}やりたいことを^{いろんなふくし}伝えて、^{しせつ}色んな福祉の^{みてまわりました}施設を見て回りました。

^{あどばいす}アドバイスとして、^{そうだん}相談の^{たんとうしゃ}担当者が^{かわって}代わってしまうことがあるかもしれない

ので、^{つねに2にん}常に2人くらいは^{じぶん}自分のことを^{ひと}わかってくれる人を見つけて^{みつめて}おくこと

^{ひつよう}が必要だと思っ^{おもって}ています。

しょうがいしゃさべつかいしょうほう べんきょうかい ないよう
障害者差別解消法の勉強会の内容

らいねん あたらしくはじまるしょうがいしゃさべつかいしょうほう ほうりつ ほうりつ
・ 来年から新しく始まる障害者差別解消法という法律について、法律につ
くわしいメンバーと県の担当者から説明がありました。

ほうりつ せつめい
<法律の説明>

ほうりつ へいせい28ねん4がつ はじまります しょう しゃ さべつ
・ この法律は、平成28年4月から始まります。障がい者への差別をなくす
ための法律です。

さべつ ちよくせつてき さべつ ごうりてきはいりよ
・ 「差別」というのは、「直接的な差別」と「合理的配りよをしないこと」で
す。「合理的配りよ」というのは、「ちょっとした手助けをその人に合わせる形
ですること」です。そのような手助けをしないことも差別になります。

すこしまえ ほうりつ くに かんがえかた きほんししん
・ 少し前に、この法律についての国の考え方をまとめた「基本指針」という
ものが出されました。それによると、これから差別を無くすための具体的な
ルールが作られることになっています。

いま みえけん しょくいん ほうりつ まもって たいおう るーる
・ 今、三重県の職員がこの法律を守ってよい対応をするためのルールを
作っています。ルールには、差別の例や合理的配りよの例も載せることにし
ています。今回の資料にも案を載せてあるので、ご意見があればお願いしま
す。

しつもん いけんこうかん
質問、意見交換

ほうりつ さべつ なく ほうりつ
・ (メンバー) 本当に法律ができれば差別が無くなりますか？法律ができること
しょう しゃ ちがうさべつ でて ふあん
で障がい者にとってのまた違う差別が出てくる不安があります。

→ (県担当者) 日本は、昨年、障がい者の権利を守るための世界のルールである「障害者権利条約」を守ると約束をしました。困っている人に何もしないことも差別であるとされています。この法律は、まわりの人たちが障がいのある人のことを考えるための第一歩です。これから、いろんな分野の人がいろんな場面で対応するためのしくみが作られる予定です。

3. 次回の内容について

・ 次回は、まずメンバーの自己紹介についての意見交換をします。

・ その後で、三重県が作っている職員の差別を無くすためのルール (= 職員

対応要領) について考えます。もし、ルールに載せてほしい意見があったら、

考えてきてください。

・ 第6回 (次回) …9月25日 (金) 13:30～

・ 第7回 (次々回) …10月28日 (水) 13:30～